亀丸城跡

【所　在　地】日置市吹上町中原
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 30 年 7 月 13 日

当城は伊作城の曲輪のひとつである。伊作城は伊作川右岸沿いの北東から南西に延びるシラス台地の先端とその周囲にある。城域は南北約 750m，東西約 1,000m に及ぶ。当城はそのうち「本丸」にあたる部分であり，標高 73m を最高点とする山城である。

亀丸城の名称は近世に城の長久を願ってつけられた美称であろう。

伊作の地は，島津荘一円荘（完全な島津庄）で伊作荘とも呼び慣わされた。本所は近衛摂関家，領家は奈良興福寺一乗院であり，その地頭職は 13 世紀（鎌倉時代）以来，島津氏の支流伊作島津氏の相続するところであった。

伊作荘は元享４（1324）年に下地中分によって北半を領家，南半を地頭が領有することとなり，以後，伊作島津氏が在地領主として定着することとなる。その際の拠点となったのがこの亀丸城という曲輪を含む伊作城で，近世島津氏の祖である戦国大名となった島津忠良をはじめ尚久，義久，義弘，歳久，家久など，いずれも当城で生まれた。現在，亀丸城跡には近世以降に建てられた忠良以下の当主や娘等の誕生石や誕生碑がある。したがって，近世島津氏の先祖発祥の地として藩政時代にも地元はむろん城下士らにより当城は重視されていた。

平成５（1993）年に発掘調査が行われ，規模の大きい多くの柱穴，版築でない土塁，多量の出土品を確認した。出土品としては，土師器坏や皿が多く，ほかに須恵器，青白磁，金銅製飾金具がある。